

三宅島の現状（その33）

平成14年6月25日

現地災害対策本部（三宅島）

【気象及び火山活動の状況】 6月11日～6月25日

この期間は、6月11日頃に関東地方が梅雨入りしました。関東地方の南海上に梅雨前線が停滞し、この影響でぐずついた天気が続きました。特に、前線活動が活発化した13日と18日には大雨注意報が発表されるなど、まとまった雨が降りました。また、20日にも低気圧の通過により、まとまった雨が降りました。

火山の状況は、6月15日火山性微動が発生し、降灰が島の北東部でありました。これ以外でも時折、振幅のやや大きな火山性微動は発生しましたが、火山活動に大きな変化はありませんでした。

また、火山ガス（SO₂）の放出量調査は天候不良の為、中止となりました。島内のガス濃度（SO₂）は、6月12日に逢の浜で7ppm、三池で8ppmまた、19日は空港及び村役場で9ppmが観測されました（東京都）。

【日帰り帰宅事業の実績等】

年月日	H14. 4. 2	H14. 4. 9	H14. 4. 16	H14. 4. 23	H14. 5. 14	H14. 5. 21	H14. 5. 22
場所	坪田地区	三宅地区	阿古地区	坪田地区	三宅地区	阿古地区	坪田地区
人数	179名	194名	190名	189名	168名	178名	289名
年月日	H14. 6. 25						
場所	三宅地区						
人数	286名						

【作業員の激励および現地取材】

6月25日、島で工事等に従事している方々に対する激励と緊急対策工事の報告などが現地で執り行われ青山副知事、兵藤特別秘書、野村三宅村助役などが参加しました。同日は報道機関も現地に入り、これらの模様のほか、赤場曉道路復旧現場、ふれあい牧場や大長井地区の泥流堆積箇所、川田沢砂防ダム完成現場なども取材されました。

【衛生環境の調査】

6月21日、クリーンハウスの衛生環境を把握するため、島嶼保健所による調査が実施されました。今回の調査内容は、勤労福祉会館・ふるさと館・三宅支庁の一部を対象とした、部屋の空気検査やダニアレルゲン検査等です。今後、今回の結果を踏まえ、更なる調査および環境改善に向けた対応を実施していく予定です。

【就労情報】

村役場では求人情報を下記のホームページに掲載するとともに、住民情報ネットワーク（島民連絡会）42ヶ所の連絡所にも送付しております。仕事を探している方はもよりの連絡所でご覧下さい。また、就職についての相談は三宅村村民課避難対策係（代表03-5321-1111内線45-651）にご連絡ください。

なお、直近の情報はホームページ「三宅島を離れた村民のみなさまへ」をご覧ください。

(アドレス <http://www.miyakemura.com>)

(問い合わせ先) 三宅支庁総務課行政係 電話：03-5320-7854

三宅島民の皆さまへ

「三宅村復興基本計画」のアイデア募集には多数のご提案をいただきありがとうございました。いただきましたアイデアの要旨は別添のとおりです。

本委員会では今後、このアイデアを反映させながら、「三宅村復興基本計画」を策定していきますので、今後とも皆さまのご協力をお願いいたします。

問い合わせ先
東京都三宅村役場
復興計画担当課計画係内
三宅村復興計画策定委員会事務局
03-5320-7826 (直通)
03-5388-1603 (FAX)

三宅島復興に関するアイデア提案一覧

番号	提案項目	提案内容	提案者
1	村営住宅の建設	泥流災害等により帰島後の生活が困難な島民のために村営住宅の建設を	埼玉県・男性
	ハザードマップ作成	島内の危険区域個所の再点検と把握のため	
	巡回バスの運行	高齢者のため、村営バスとは別に運行を	
	近隣の島と非常時の応援体制を策定	非常時に速やかな相互協力で医薬品や食料品の確保	
	アイランドテラピー構想	魅力ある三宅島を多くの方々に知ってもらうため	
2	火山観光と温泉開発	温泉を利用した魚養殖や温室栽培で島民就労の場を	台東区・男性
3	「がんばれ三宅島」観光客誘致キャンペーン	観光客誘致のため宿泊施設を早期復旧し「がんばれ三宅島」キャンペーンを	静岡県・女性
	観光スポット整備	噴火の様子が見れる所や、学校跡などを観光スポットに	
	一人一木運動	島を訪れる観光客に苗木を購入してもらい植林を	
	島の特産品販売とPR	島の特産品を生産する体制を早く整え、本土各地にて「救援出張市場」として販売とPRを行う	
	三宅島復旧大作戦	観光客に島の観光をしながら復旧に関するお手伝いをして頂く	
4	自然災害研究と自然エネルギー研究所の設置	地震、台風、地熱、波、風などの総合研究所を設置して、これらの最先端発信基地に	神着・男性
5	ココマ遺跡の活用	貴重な東京都指定史跡のココマ遺跡を観光に活用	ハワイ・男性
6	三宅島の復興は自然を大切に	海の幸・山の幸が豊富であり小鳥の声、一年中咲く花で季節の訪れるがわかる東京にはない自然がある	坪田・女性
7	復旧作業と産業回復をリンク	復旧作業の宿舎に民宿を使用、農業経営者の降灰除去作業従事など、復旧作業と産業回復をリンクさせ、産業回復を	伊豆・男性
	漁港の統合	三宅島を再びマリナーのメッカとして復活させ、漁協と観光協会の効率的な運営を	
	周遊観光船・観光バスの定着	村営バスとえびね丸、それぞれの空き時間を島周遊の観光バスと観光船に有効に活用すべき	
	大型複合的施設の建設	観光施設と避難施設を兼ねた大型施設を村と村民が共同出資建設し、民宿同士で共同運営を	
	港や空港に島産品の特売所	島の新鮮な魚や野菜を宅配郵送できる店舗を	
	小中学校の再編	統廃合で効率的な運営と空いた施設の有効利用を災害を機に「三宅島は一つ、三宅村も一つ」の原則に立ち返るべき	
	三宅高校に「観光産業学課」	観光産業学課は大学では散見しても高校にはない。島外の若者を呼び寄せてそのまま島に根付かせよう	
8	村民の「野菜畑づくり」	高齢化に対応しうる福祉政策と園芸療法（園芸セラピー）、菜園療法が展開される場の提供を	国立市・男性
9	温泉付特別養護施設	高齢化社会に安心して老後を後れる養護施設を	阿古・男性

	雄山噴火口の自然観察路	雄山噴火口の一周遊歩道と裾野には牧場と休憩所を	
	海洋レジャー公園	天然海水プール、海釣り桟橋、レジャーボート停泊場、ダイビング場などの整備を	
10	島民の観光ガイド養成	島の住民が誰でも観光ガイドが出来るように避難中にガイド養成を	阿古・男性
	Iターン希望者の受入れ	民宿経営、農漁業希望者など島への定住を希望する若者の受入れを	
	バスを小型化しきめ細かな運行を	乗り降りを自由にし、生活に係わり深い施設に立ち寄るコース設定を	
	中高一貫教育	高校施設を利用して中高一貫教育をし、空いた中学校施設を防災拠点や老人センターなどに有効活用を	
	東京に三宅村拠点	避難している孤立島民を数カ所の拠点団地に集めて	
	島民の手で家屋の保守管理	各地区毎に交替制で渡島しクリーンハウスに宿泊して家屋の保守管理を	
	火山研究所	三宅島測候所と関連した研究者宿泊所併設の研究所	
11	食糧品の仕入れ統合	島内の販売店が共同仕入をして販売コストをさげる	府中市・男性
	野菜の協同無人販売所	少量でも出荷でき余った野菜から現金収入ができる	
	魚の直売所	観光サービスと漁業者の現金収入になる	
	親切な接客の意識改革	島を訪れる観光客への親切な接客は全島民が必要	
	火口一周散策路整備	巨大な観光資源の雄山を観光シンボルに	
12	村営住宅の整備と就労の確保	心配のない帰島が出来るように	神着・男性
13	充実したダイビング観光	美味しい料理が食べられるお店、観光スポットなどを整備し、再び活気あふれるダイビング島に	坪田・男性
14	ダチョウ温泉卵	土地の平らなところでダチョウを飼って	文京区・男性
	飼う漁業	生簀で魚、とこぶし、サザエなどを育て出荷	
15	土地利用区分	土地利用には保存地区、開発地区に分けて利用形態を	阿古・男性
	ハザードマップ	火山島である三宅島では作成急務である	
	神社仏閣を観光に	三宅島は全国に例を見ない神社仏閣の集約した地域	
	甘藷酒、あしたば酒	地場産業として実現を	
	資料館の建設	次世代に三宅島の文化を残す推一の方法と考える	
	エネルギー開発	海に囲まれた島であり動波発電を考えるべき	
	火山研究所	世界の科学者が火山のメカニズム解明の場として	

	新たな観光政策	水中探査船など今までなかった新しい観光政策を	
	紫陽花園の造成	新しい観光客の誘致につながり、リピート客の発掘に	
	サイクルロードレース場	観光客の誘致のためハチマキ線を利用したレース場を	
	バードアイランド	イベントを実施し積極的な観光アピールを	
	既存施設を利用したガス対策	中学校の統合で生じた学校をクリーンハウス化することで避難施設として効率的利用を	
	三宅高校のグレードアップ	全寮制にすることにより都会からの修学を	
	既設箱物の有効利用	現在ある箱物を有効利用することで経済的に	
	復興事業に民宿利用	建設業者の宿泊に民宿を利用し地域経済の活性化	
	集団営農施設	単に補助金を出してハウス増設をするのではなく集団の施設を作って通勤農業を	
	廃車処理会社の誘致	廃車を島内で解体処理することで復興に役立てる	
	高足蟹漁業	今後の三宅島の漁業振興の面から検討すべき	
16	水族館・火山資料館	天候に左右されずに過せる観光施設の整備を	阿古・男性
	養殖場	島で捕れた魚を安価で島民が食べられるように	
	乳製品製造	村営牧場で製造し全国に販売する事業を	
	人材育成	避難生活の間に高齢者介護など多彩な人材づくりを	
	競馬・競艇・競輪レースの収益金の活用	レースを組んでもらい収益の何パーセントか貰えるよう	
	カジノ計画	三宅島を東京の海外と考えてカジノ計画を	
17	寄宿舎付資格学校（中高年向）	宿舎は村営住宅を使い、校舎は役所や小中学を使用して複合的の学校を	杉並区・男性
18	火山ガスを観光資源	島民の生活と雇用のため、火山ガスを観光資源に	男性
19	資料館建設	噴火の様子、避難生活の様子などを資料として展示	坪田・男性
20	遊休農地の活用	島内の遊休農地を村が借上げ整備し、島外からオーナーを募集して体験農場的観光資源に	神着・男性
	地酒造りの促進	観光客が持ちかえる土産物が少ないので地酒を	
	インストラクターの養成	長期避難を利用して、火山・海・野鳥など島の観光案内のインストラクター養成を	
	観光客の受け入れ検討	観光事業への復帰意向調査。収容施設の質及びもてなす心の醸成。観光業者の育成支援を	
	地引網・定置網	地引網、定置網などの体験漁業で観光客誘致対策を	

	人工潮溜まり	水遊びのできる大きな潮溜まりを造成し、観光客や島民に行楽と自然科学観察学習の場を提供	
	漁業組合員の意識改革	漁協の健全化のため個人売買はせず自家用は原価で買い水産物は漁協が各商店に販売を。遊渡船の操業も漁協に部金を	
	蓄養場、養魚場	トコブシなどの魚介類を生きたまま観光客の食卓に	
	水産加工分野の開拓と人づくり	とれた魚に付加価値を高めて高く換金するために、関係業界に人を送込み技術習得させて新産業を	
	農業用水確保対策	帰島後安心して農業に従事できるように	
	村営堆肥工場	降灰のため土壌改良が必要となる。このため堆肥工場を整備し雇用対策を	
	共選共販態勢の確立と栽培作目の研究	レザーファンにしても東南アジアから大量に輸入される時代がこないという保証はない。農家の安定収入を確保する為に	
	農家への支援を	被害を受けた施設の解体撤去の支援。新施設の資金援助、借入金の利子補給などの支援体制を	
	高齢者の技術習得	帰島後、高齢者に新たな戦力となっていたるためにこの避難中に財政的な援助をして技術の習得を	
21	避難中の島民に経済援助	未曾有の大災害に大規模な支援施策を	神着・男性
	自然災害防災総合研究所	噴火を予知できる研究所の設置を	
22	火山体験学習場	小・中学校を統廃合し校舎を体験学習の場とする	阿古・女性
	朝市	屋根付施設を作り定期的な市を	
	建設資材の生産	火山灰・溶岩を使いブロック等を	
	高齢者ケア施設・障害者施設建設	障害者・老人等がのんびり自然と生活できる施設を	
23	体験観光施設	体験できる牧場・港を利用した釣堀・自然を利用した多目的プール	坪田・男性
24	溶岩の利用	河川の浄化・競技場の水捌け剤に活用	阿古・男性
	レジャー港整備	現在5箇所ある漁港を1箇所とし、他漁港をレジャー港とし多目的に利用する	
	とこぶし人口養殖	特産品とし年間通じ提供できるように温泉・バイオテクノロジー等利用し養殖を	
	新商品開発	温泉を利用したスッポンの養殖を	
	三池港・阿古港の整備	いつでも接岸出来る港に改良を	
	農業施設の集団化	大型の施設を集中的に建設し観光にも利用	
	認定農業者資格習得	認定農業者になるための簿記の習得等の研修を	
	交通アクセスの整備	島の観光にとって空港の整備は最重点課題である。現在ある空港も西風に弱い。空港の拡張も考えずらいために別の地区に空港建設を	

	住居用クリーンハウス建設	火山ガスとの共存を考えるとクリーンハウスの建設が不可欠である。住民の帰島も早くなるはず	
	小・中学校の統合	生徒数が減少している今、小・中学校を統合し空校舎の有効利用を	
	三宅島直行便の再開	渡島に伴う高額の経費の支出を改善する事で早期復興を	
25	火山ガスに強い屋根の研究	二酸化硫黄に強い屋根材等の研究を	阿古・男性
	法律職専門職員の派遣	法律や補助制度に詳しい都職員を村に臨時派遣を	
	学校教育の継続性	小学校は現在そのまま残し、中高は一環教育とし授業は現高校で行い、中学校舎は他に利用する	
	郷土学習	避難中団地の空室を利用し郷土学習を	
	社会人学級	社会人を対象にパソコン、介護などの生涯教育を	
26	三宅島カジノ構想	お台場カジノ構想を三宅島に	豊島区・女性
27	ゴミ処理	帰島後家庭から大量に出るゴミの処理をスムーズに	坪田・女性
	生活排水	生活排水が海に流れないように	
28	三宅島の交通整備	三宅島の発展には安く・速く・安全に利用できる交通を	坪田・女性
	老人ホーム建設	老人ホームを建設し働く人の人材育成	
	若者が住みたくなる村づくり	若者同士が月一回集まり集会をやるなど若者が住みたくなる村づくりを	
	民宿サービスの充実	宿泊する場所のサービスの充実	
	農業経営貸付金制度	農業に従事する人には貸付を	
	林業事業	林業については村で運営を	
29	避難施設整備	高齢者・障害者に配慮ある避難施設を	阿古・女性
30	多目的養殖場兼海水プール	三宅島の海産物が通年流通できる。また通常は海水プールとして利用する。	伊豆・男性
	漁業を観光に	定置網と夜のとびうお漁の観光を	
	漁場整備	アオリイカ等の産卵場の整備、とこぶしなどの放流も	
	浮き漁礁設置	漁獲量を増やすという意味で必要	
	後継者対策	引退した漁師の漁具・漁船の貸し出し、住居として村営住宅の貸与等で、後継者対策を	
	雑漁の堆肥化	定置網等で取れる雑魚を堆肥化に	
	防災無線の改善	海・山にいと放送内容等が聞きづらいため拡声器等をもっと多く配置するなど	

	バス停シェルター	バス停にシェルターを設置し噴石対策を	
	医療の充実	お産ができないのも人口減の要因でもあるお産のできる医療施設を	
	観光用散策路の整備	都道から雄山にかけて観光用散策路の整備を	
	身体障害者の作業場の整備	精神障害者を自立させるために施設の整備を	
	三宅高校に福祉科の設置	高校生から福祉の教育を受けさせ、高齢化対策を	
	野鳥の増殖場等の整備	野鳥の増殖場兼観光客に見せる施設を	
	島内産物の利用	島内生産農作物は島内業者に販売する	
31	家屋修理に係る夜間滞在	個人財産の家屋と修理時間確保のため、夜間滞在を	坪田・男性
	財産確保の為に公的資金投入	個人の財産を守るために	
	朝市	月1回朝市を	
32	三宅島マラソン大会	島の周回都道を利用したフルマラソンを	江東区・男性
33	人工ゼオライト製造	火山灰を利用した製品造り	目黒区・男性
34	レジャー港の整備	観光客の誘致に	神着・男性
	海中観察船建造	三宅島の海を幅広い年齢層に知ってもらうために	
35	産物の量産化	アシタバ・里芋等の三宅島特産物の量産化	町田市・男性
	グループによる営農	高齢化に伴う農業の衰退防止策として	
	無農薬・有機栽培	農業の基本は無農薬である	
	竹炭	篠竹を利用し炭を焼く	
36	観光事業の充実化	観光が潤えば商店等活性化してくる	神着・男性
	火山を利用した観光	今までの噴火の跡地等を利用した火山観光を	
	空校舎クリーンハウス化	小中学校を統一し空校舎をクリーンハウスに	
	島内バスの小型化	小型化にし、本数を増やす。	
	バス停以外での乗車	バス停以外での場所での乗り降りができるように	
	水中観光船の開発	三宅島のサンゴの多い海を観光に	
	トレッキング用道路の整備	歩いて島の自然を味わう道を整備する	

	温泉施設の整備	露天風呂・安くて小さい温泉を	
	アカコッコ館に噴火資料館を増設	現在あるアカコッコ館に噴火資料館を増設	
37	食糧自給を目標とする	農耕・漁業により食糧を自給することを目標に	坪田・男性
	健康アイランド建設	老人介護・児童ケア支援などの社会福祉事業を島外の利用者も対象に運営を	
38	道路の建設	都道から栗辺下までの道の建設、駐車場等も	坪田・男性
	大型プール建設	長太郎池と坪田漁港の間に人工プールを	
	ダイビング博物館	ダイビングの歴史を飾る	
	天体観測施設の建設	三宅島の自然のすばらしさを観光客に	
	露天風呂建設	逢いの浜温泉に露天風呂を	
	火山博物館	研究・観測・予防・防災対策あらゆる角度から検討し集客できる施設を	
39	小中学校課外授業	修学旅行・課外授業の場を格安プランで提供を	千葉県・匿名
40	三宅島マラソン大会	フルマラソン・ハーフマラソン大会を年1回開催を	港区・男性
	火山ガスの有効利用	研究所などに依頼し火山ガスを何かのエネルギーに	
	火口の上に吊橋	火口の上に吊橋を掛け渡らせる	
41	災害支援基金の設立	雲仙などで行なった基金などの設立を	阿古・女性
	食事供与事業	収入等がなく困っている人を対象に	
	長期化する避難生活の集住化	島の人が一箇所で暮らせるように	
	三宅島ツアー	災害中の三宅島をツアー等で見せる	
	定期的な説明会・懇談会を	島民の連帯感を保つために	
	民宿等宿泊施設利用	復旧工事の人達を民宿等に泊め島民の雇用対策に	
42	三宅島ブランド	ビジョンを明確にしシンボル商品をつくる	港区・匿名
43	行政と島民の話合いの場	光ファイバーで行政と島民が直接話せる機会を	府中市・島民
	高齢者対策	高齢者に手厚く支援を	
	宿泊施設の整備	ロッジなどの素泊まりが出来るような多様な形態を	
	食事処の充実	素泊まり客のためにも食堂も充実を	

	島の個人の家を守る	島の復興のために一番大切なこと	
	物価対策	三宅島は東京に比べ物価が高いので対策を	
44	海洋生物と触れ合える施設	魚をならし人が餌を手で上げれるように	阿古・女性
45	地熱エネルギー利用	地熱エネルギーを使い農業を	坪田・男性
	火山研究施設の誘致	世界的にも珍しい三宅島の噴火の研究を	
	高温岩体発電所の建設	発電量が大きく実現すれば島の産業の活性化に	
46	一時帰宅と全島民帰島プログラム策定	火山ガスが不確定のため短・中期計画策定、各方面への経済支援要請を	板橋区・男性
	商工業者の一時帰宅対策	民宿・商工・農、漁業者の帰宅を	
	民間業者早期生業立ち上げ	作業員宿泊のため民間業者にも脱硫設備を	
	三宅島日帰り帰宅対策	帰島の増便・八丈島帰島便復活・各家庭水道、電気の供給	
47	絵本で島のPRと収入	私の描いた絵本で島の方々の生活の助けに	杉並区・女性
48	島の家の保守管理を島民の手で	各地区ごとに渡島して家を避難解除まで守る	阿古・男性
	将来の生き残り選択肢を多様に	どんな事態展開にも備えて生きていける道しるべを。帰島だけを前提に進めるのは不安が残る	
	観光産業中心に	住民誰もが観光ガイドになれるよう避難中に島民ガイド養成を（島民でなくても関心があれば）	
	島民以外の就職希望の若者受け入れを	島内就職希望の（若者）の受け入れ体制を	
49	公営住宅の建設	当面、元の自宅で生活出来ない島民の入居のために	神着・男性
	商売を変える際の支援、移転場合の土地購入補助、再建資金補助	被害の大きい地域で農業、商工業を営んでいた人たちに	
	公務員、団体職員、地元現地作業員などの早期帰島	ほとんど被害の出ていない地域の人たちを即座に帰島できる条件をつくるために	
	民宿等、宿泊業の再開と活用	安全地域の民宿を再開し、作業員宿舎に	
	降灰除去作業にボランティア要請	自力で降灰除去作業ができない高齢者のために	
	保育園、学校にクリーンルーム設置	全校生徒、全職員が避難できるように	
	中央診療所の再開、地区診療所の診療体制の充実	設備を建て替えてスタッフや診療内容を充実すべき	
	集会場の整備	調理施設を整備し、地区の女性や高齢者の集いの場、高齢者のデイサービスセンターとして活用できるように	
	緊急避難用のクリーンルーム整備	各地区の公的施設に緊急に避難できるクリーンルームを	
	三宅島牛乳や三宅島産焼酎、江戸豚などの復活	島民の生活を確立し、観光を成り立たせるために	

	高齢者介護の医療、保健、福祉体制の充実	働き盛りの世代が老親の介護負担にエネルギーを使い果たしてしまわないような体制の充実を	
	郷土資料館建設	災害経過などを学習できるような施設建設を	
	温泉を拠点とした総合的施設建設	長期湯治ができ、若者や高齢者等が集まれる総合的な施設の建設を	
	大島支庁管内の島と観光リンク	伊豆諸島全体をひとつのセットで楽しんでもらう	
	降灰除去作業など施設の整備に高齢者の活用	元気農場やゆめ農園的発想で、そこで雇用されながら収入を、	
	新たな地場産業の開発	火山灰を換金できるような開発を	
	廃棄物処理作業	廃棄される大量の車両処理システムを確立し収入を	
	浄化槽の整備	家屋の再建や村営住宅の建設の際は浄化槽の建設を	
	倒壊・流出家屋に公的補償	個人住宅の再建のための支援を	
	エコエネルギーの有効活用	地熱、波、強風を活用すると共に観光資源に活用を	
50	一時帰宅早急実施	住宅の整備修理のため三日～一週間程度の帰宅を	阿古・男性
	住宅保険査定検査の早急実施	住宅家財の保険について保険会社は早急な実施を	
	生活再建給与の支援	帰島後暫く収入が得られないため生活費の支援を	
	財源確保と支援要請	財源確保のために、住宅周りと周辺道路の整備などを国や都に要望すると共に強力な支援要請を	
51	借入金の債権放棄	避難前の住宅金融で発生した債権や商工業者らが帰島前にもっている事業用の債権放棄を認めてもらい再建計画を	阿古・男性
	無保証人の借入金制度	今の状況では保証人を探すのはとても難しい	
	海をアピールした観光	ダイビング客と釣客が安心して楽しめる環境と施設を	
52	椿林の造成	災害に強い椿林の計画的植林をして、観光資源にすると共に椿の実収穫で高齢者の収入に	坪田・男性
	飲料水の調査と確保	今回の噴火での影響調査と御蔵島村から海底導水により飲料水の確保を	
53	海洋資源の顕在化技術の活用	魚介食品のダイオキシン除去対策、すべての自然的人為的災害に対する存在の安全保障、動物蛋白質摂取方法の転換、地球温暖化対策を	神奈川県・男性

平成14年7月1日

三宅村復興計画策定委員会の報告

第6回三宅村復興計画策定委員会開催

[日 時] 平成14年6月7日(金)
午後1時30分～午後5時00分

[場 所] 東京都庁第一本庁舎北42階 C会議室

[主な内容]

◎別紙議事概要のとおり……………1～3ページ

三宅村復興計画策定委員会事務局

住所 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1 東京都庁第一本庁舎南41階

電話 03(5320)7826 FAX 03(5388)1603

メールアドレス miyake_c@miyakemura.com

第6回三宅村復興計画策定委員会の議事概要

今後、策定される「三宅村復興基本計画（案）」の記載内容や策定方法等について、委員長案をもとに、各委員から次のような意見や提案等について議論されました。

1 「復興計画の目次案を用意する」ことについて

（委員からの意見・提案等）

- ・特に異議なし。

<結論>

- ・何を盛り込むべきか、どのような順番で盛り込むかを明確にするため復興基本計画での目次を設定する。

2 「帰島のスキーム（計画）」について

（委員からの意見・提案等）

- ・帰島に関することについては、復興計画の中にも掲げるべきである。
- ・帰島計画については、この復興計画と連動する形で策定する必要がある。
- ・「帰島に向けて頑張ろう」というメッセージ的なものをこの計画には入れるべきである。
- ・この委員会は三宅村の復興に関しての計画を策定する会であるので、帰島に関することについては、各産業を活性化させるための復興に関わる部分について議論するべきである。
- ・帰島計画については、国や東京都及び関係諸機関等が、島民をどういう形で帰すのか、を協議しながら作成するため、この委員会で議論することは難しい。

<結論>

- ・一時滞在の安全対策を拡大しながら、部分的・段階的に復興作業が行えるよう、復興基本計画に盛り込んでいく。

3 「復興計画の全体像を示すために、帰島後の三宅島の姿を「土地利用計画」として空間的に展開する」ことについて

(委員からの意見・提案等)

- ・生活再建・地域振興・防災しまづくりというのが大きな柱であるので、そのことを横につないだゾーニング（土地利用区分）とするべきである。
- ・今回の噴火により危険となった沢地近辺などの危険な個所に対して土地の制限をかけるというような災害危険区域に対するゾーニングを行うべきである。
- ・都市計画法に基づく整備開発及び保全の方針というものを参考にしながら作成することが望ましい。
- ・火山ガスに対しての危険区域の指定というのは難しいので、火山ガスに対して配慮すべき区域というような形でゾーニングを図るべきである。
- ・街並みの整備を促進するため、街並み条例的なものをつくり、屋根の色や壁の色などを設定することで、私的財産に公的資金を導入する理由付けを考えてみてはどうか。また、基本計画というのは、将来の三宅島像なので、「こうして行こうよ」という願望として載せるべきである。
- ・街並みの整備というのは、観光地を選ぶ一つの素材としてもなるので必要であるので、本計画に載せるべきである。

<結論>

- ・生活再建・地域振興・防災しまづくりを基本に考えたゾーニングとする。
- ・沢地近辺などの危険な個所に対しての土地利用の制限に対するゾーニングを図る。
- ・地域振興の観点からも街並みの整備は土地利用計画の中に盛り込む。

4 「復興計画の事業完成までに要する年限を書き入れる」ことについて

(委員からの意見・提案等)

- ・昭和58年の噴火では復興する勢いがあった。今回もそういった意味で、年限を長い年月で設定しなで、短いスパンで考えた方が良く思う。
- ・今からが復興だという意識から言えば、現在行われている家屋の修繕を起点として、移行期、復興期という形での目標年次として書き込んではどうか。

<結論>

- ・帰島するための基盤を整備する時期・帰島ができて生活基盤を整える時期・観光が成り立つような地域振興が進む時期という形で年限を想定していく。

5 「表形式を利用して施策を体系的に提示する」 ことについて

※提示例

大 目 標	そのための下位目標	実行すべきこと	事 業
生活再建	すまいのこと	調 査	〇〇〇事業
		補 修	△△△事業
地域振興	仕事のこと		
防災しまづくり			

(委員からの意見・提案等)

- ・復興に関しての各種事業について、抜け・漏れ・落ちが一目で分るので、この表記で良いと思う。
- ・この形で良いと思うが、事業項目のところについては、絞りこむことが困難だと思うので、島民などから頂いたアイデアや意見を別添参考資料的なものとして別枠で整理し、村に対して答申すべき。
- ・事業項目の後ろに備考欄を設けて、財源確保に係る各種補助事業名などを盛り込むべき。

<結論>

- ・島民の皆さんから頂いたアイデアや意見をこの表に全て収めていくこととする。
- ・この表に基づき、次回から地域振興、防災しまづくり、生活再建という順で議論を進めて、事業などについて精査していく。
- ・大目標の部分について数値目標を設定する。(生活再建で言えば、将来人口は〇〇名、地域振興で言えば、年間観光客数を△△万人という形で)
- ・備考欄を設け、各事業に対する補助事業名等を記入する。

以上のように、三宅村復興基本計画(案)策定方法について議論がなされ、次回から地域振興に関する計画(案)を中心に議論していくこととなりました。

※三宅村復興計画策定委員会の今後の開催予定

● 7月 5日 (金)

● 8月 2日 (金)

● 9月 4日 (水)

● 10月 4日 (金)

三宅島日帰り帰宅に伴うゴミの取り扱いについて

三宅島日帰り帰宅時のごみ収集は、可燃ゴミと一部不燃ゴミのみとなります。
詳細は下記の通りとなりますので、ご注意ください。

注意：ゴミは、可燃ゴミ・缶類・ビン類に分別して、ビニール袋かダンボール等に入れてバス停までお持ちください。

記

収集するゴミ	品目	種類	詳細内容等
	可燃ゴミ	紙くず類	紙くず・古紙・牛乳パック・ダンボール等
布類		布・服類・シーツ等	
プラスチック類		ビニール・ペットボトル・ポリ容器・トレイ等	
その他		生ゴミ・ゴム・皮類・ひも類・刈り込み・木くず等	
不燃ゴミ	缶類	アルミ缶・スチール缶・その他缶	
	ビン類	ビン類・陶磁器類・ガラス	

収集しないゴミ	品目	種類	詳細内容等
	不燃ゴミ	無価値物	鉄類(なべ・やかん・フライパン等)・小型電気製品・おもちゃ・傘・スプレー
		有害ゴミ	乾電池・体温計(水銀使用のもの等)・蛍光灯等
	家電製品 不燃性粗大ゴミ	洗濯機	全自動洗濯機・2槽式洗濯機・乾燥機能を有する洗濯機 (対象外・・・衣類乾燥機・業務用洗濯機)
		テレビ	ブラウン管式テレビ・ビデオ内蔵テレビ(ブラウン管式)・ テレビ用リモコン(乾電池除く) (対象外・・・プロジェクションテレビ・液晶テレビ・パソコンモニター)
		エアコン	冷房機能を有しているエアコンが対象となります。 壁掛形及び床置形セパレートタイプ・ガスヒーターエアコン・石油ハイブリットエアコン エアコン用リモコン(乾電池除く) (対象外・・・冷風機のような熱交換による冷房機能が無いもの、 天井・壁埋め込み形エアコン・室外機に付属する工事部材)
冷蔵庫	冷蔵庫・冷凍冷蔵庫・個人使用向けに製造されたワインセラー (対象外・・・冷凍機能のみを有するもの・ホームフリーザー・冷凍スツーカー ・ショーケース等の商品陳列用機器)		
可燃性粗大ゴミ		木製家具・布団・ジュータン・マットレス等	

※注意 ゴミの廃棄内容及び方法については、これを厳守願います。

議会の動き 6月

6月1日(土) 6月2日(日) 島じまん2002出席

5日(水) 全員協議会開催(復興計画策定委員会の状況について他)

7日(金) 衆議院災害対策特別委員会傍聴(鳥取県知事・静岡県知事、参考人として災害対応について意見陳述)

9日(日) 島嶼郷友会(議長出席)

13日(木) 議会第4回臨時会(村道復旧工事・簡易水道ろ過装置設置工事)

19日(水) 議会運営委員会開催(6月定例会の日程について協議)
全員協議会開催(島内の避難施設の状況等について協議)

21日(金) 三宅支庁管内事業説明会(島内復旧事業の状況等事業の進捗ほか事業計画について説明)

22日(土) 飯田橋・シニアワーク東京に於いて、三宅島島民連絡会代表者と議員による懇談会出席、意見交換

24日(月) 気象庁に於いて火山活動に関する説明会出席

27日(木) 第2回定例会第1日目(一般質問他)

28日(金) 第2回定例会第2日目(補正予算他)

紺野美沙子さんが来場



5月27日には女優の紺野美沙子さんが来場し、テレビ番組(テレビ東京:“東京色”)の撮影が行なわれました。

アシタバ畑で生葉を口にしながら紺野さんから、『このアシタバは優しい味ですね』とか、試食して頂いたアシタバの天ぷらには『美味しいです』などの感想をもらいました。とても自然体で農場の景色とマッチして美しく見えました。

場員との交流もあり、テレビ取材と言う限られた時間の中、楽しい半日を過ごしました。



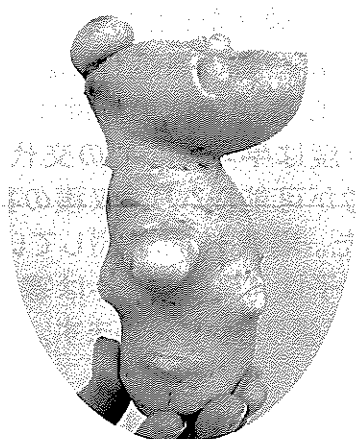
来場者紹介 - 次の方々が遠路のところ当農場を訪ねてくださいました -

【見学等】

- ・高尾山薬王院 渋谷秀芳さん
- ・渋谷区教育委員会 和田秀穂さん 外4名
- ・元坪田駐在所(警察官) 早川清明さん
- ・元三宅児童・生徒支援センター 奥住さん
- ・釜地利治さん(足立区在住:阿古)
- ・島沢誠さん(八王子市在住:伊豆)
- ・山本照雄さん(八王子市在住:坪田)
- ・鈴木豊さん(八王子市在住:坪田)

【取材等】

- ・日本経済新聞社 土田芳樹さん
- ・千代田ソフトプランニング 久保公さん
- ・TVプロダクション AMAZON (順不同)



「メークイン畑で生まれた「げんきムーミン」です。

97番目の場員をご紹介します。

「農場へ来るには」

JR八王子駅北口『12番』乗り場、または京王八王子駅『4番』乗り場より、『稲荷坂下』バス停で下車徒歩10分。「ひよどり山中学校」のすぐそばです。

※両乗り場とも「純心女子学園」行きは2系統ありますので、「稲荷坂下」を通るか乗車の際にお尋ねください。

三宅島「げんき農場」だよりのバックナンバーは、三宅村のホームページ「村民の広場」の「げんき農場情報」でもご覧になることが出来ます。こちらでは掲載写真がカラーでご覧いただけますので、インターネットをご利用できる方は是非ご覧下さい。

「村民の広場」アドレス → http://www.miyakejima.gr.jp/info_miyake/

三宅島「げんき農場」だより

発行元 三宅島「げんき農場」
所在地 八王子市宇津木町236-1
Tel&Fax: 0426-27-4355
e-mail: genki-farm@nifty.com

農場近況



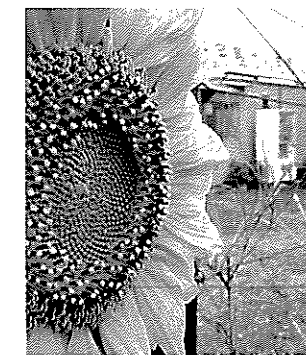
農場の開設から2年目の今年、試行錯誤・無我夢中だった昨年の状況から一息つき、作業は順調に進んでいます。冬越しのアシタバが美しく、里芋の葉も揃い始めました。ジャガイモ(出島、男爵、メークイン)の収穫は既に終わり、幸先良く大豊作となりました。

スイカ畑では100穴の苗が元気に蔓を伸ばします。スイートコーンも日増しに丈を高くしています。枝豆もウコンも楽しみな成長状況です。



また農場の一角を占める花も、水仙・ナデシコ等が終わり、現在はヒナゲシ・スイートピー・百合・ヒマワリ・矢車草・クルクマなどが咲き始めました。

近くの小宮公園を散歩する人達から、昨年のコスモス畑やポーチュラカ通りなど反響を頂きましたが、今から『今年もげんき農場の花が楽しみです』と声を頂いています。



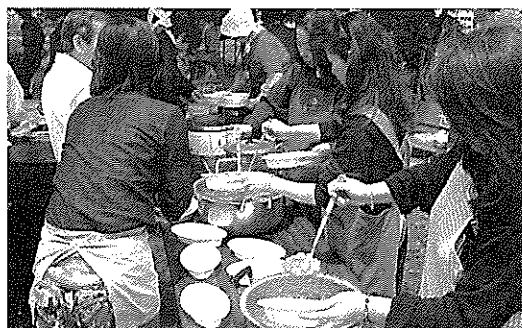
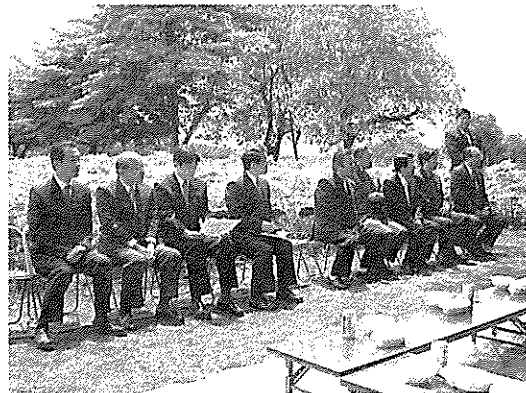
アシタバの植付けが始まりました。昨年の畑の周辺を開墾し、作付面積も拡大しました。若苗が植付され、農場全面がアシタバ畑になるのではないかと思います。

都議団の視察

5月20日、天気心配された中、自民党都議団14名外3名、計17名が来場されました。

この日は八王子の地元議員の方が中心となり、また急きょ八王子市長も駆け付け、農場の視察、場員との懇談等、有意義な1時間を過ごしました。

昼食には都議団のご厚意でカレーライス90名分が「交流の森」に持ち込まれ、更に農場でも島料理のうどん煮込み鍋を準備して、場員と関係者全員で昼食を楽しみました。



勉強会が開催されました

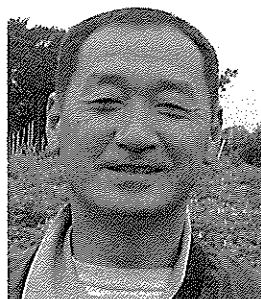
避難生活も2年の月日が流れます。現在、場員の平均年齢は64才を超えており、老人医療制度・介護保険・特養ホーム等は身近な問題でもあり、日常の知識として知っているべき事柄も多いと思います。

毎月2回定期的に来場し、場員の健康相談をして下さっている、東京都三宅島保健所の小杉先生(課長補佐)に相談したところ、早速指導スタッフを編成(宮下雪子氏、水原光男氏、大谷貴治氏)し、今回は「介護保険制度」について、実例を交え解り易く説明して頂きました。



[2002年6月10日]

農業改良普及センター・三宅支所長のご紹介



東京都農業改良普及センター三宅支所長
藤本 周一

この度4月から三宅支所担当となりました藤本です。前任者から引継ぎ「げんき農場」のお手伝いもすることになりました。よろしくお願いいたします。

場長さん・班長さんはじめ90余名の場員の方々と親しく接する機会を得て、三宅島の天気のことや海のこと、畑のこと、お祭りのことや食べ物のことなど、三宅島の生活についてお聞きするたびに、想像をたくましくすると共に、島への思いを募らせている日々です。

場員の方々の多くは、私よりも「やや」人生経験の豊かな方々ですが、農場の作業をテキパキと実に力強くこなし、脱帽するばかりです。そして皆さん明るくて、朗らかです。

この「元気」と「明るさ」を一日でも早く島へ持ち帰りたいたいものです。

場員の声



築穴 辰雄
(武蔵村山市在住:阿古)

「二度目の春」

昨年4月に就労の場を与えられ、今年またげんき農場に迎えて頂きました。

昨年は開墾作業等に追われ、作付作業がだいぶ遅れましたが、今期は順調に適期の作付ができ、実りの秋に期待を膨らませております。

又、農場での生活で新たな収穫もありました。狭い三宅島ながら、今まで出会うことも声を掛け合うこともなかった人達との親睦ができたことです。島内での地域意識を取り払い、皆で三宅島の将来を考える息吹が生まれつつあるように感じています。

噴火災害によって失ったものは甚大ですが、その反面得るものも大きいと確信しています。げんき農場で多くの島民と知り合い、復興への思いを語り合い、励まされながら、切磋琢磨の毎日が続いております。

来年はこの農場が八王子市民の憩の場として提供され、我々は故郷三宅島へ帰ることを願う毎日です。

「2年目に向けて」

農場の周りは緑が多く、近くに海でもあれば島と錯覚するくらい環境が良いところです。公園に隣接しているので色々な人達が散歩をしていて、『頑張ってください』などと励ましの声を掛けてくれます。

一時帰島が始まり島の話が多くなりましたが、全国の支援してくれた人達のためにも一人でも多くの方が島に帰り、復興に協力することが一番の恩返しになるのではないかと考えます。そのためにも、この農場で体力を付け、みんなで協力して頑張りましょう。

昨年度は半年間づつの交代でしたが、今年度は1年間を通しての就労が可能になり、収穫の喜びを味わえることが出来るようになりました。場員一同感謝しています。

八王子は、夏は暑く冬は寒いとのこと。皆で協力してこの農場を一日でも早く卒業できるよう頑張りたいと思います。



沖山 勝郎
(東村山市在住:阿古)

「お世話になります」



伊藤 俊則
(江東区東雲在住:坪田)

4月より皆さんと一緒に仕事をする事になり喜んでます。農場はどこか三宅島を思い出すようなところがあり、作業が楽しい毎日です。

赤芽イモ、さつま、スイカその他の作物の植付けも終えて、秋からの収穫を楽しみにしています。場長、副場長、普及所の先生、班長の指導を受けて得た技術を三宅で生かし、自分の畑で作物を作る夢を見ながら、早く三宅島に帰れることを願う毎日です。

これからも農場の皆さんには色々とお世話になるとは思いますが、よろしくお祈りします。